
Real & Select

緑道木通

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Real & Select

【Nコード】

N3549Y

【作者名】

緑道木通

【あらすじ】

人間の創り上げた0と1の世界、そこでは人間はヒトとなりマイナスから軌跡は始まる。
全てを取り戻し個となりえた人間は、真実というスタートラインに立てるのか？

主人公は世界の理解者となれるのか？

序章

- 西暦2300年 某日 6:47 -

これはどこにでも存在するありきたりな民家の風景である。

「お母さん！私の体操着知らない？」

明るい印象をあたえる声と共に、足取りの軽そうな音をたてて今時珍しい黒を基調とした正統派のセーラー服を身に纏った少女が母親のそばへと駆けよる。

「玄関に置いておいたわよ」

「あ、ホント？ありがとう」

返事もそこそこに少女は玄関へと歩き始めた。

「あら？」飯はいいの？」

いつもなら健康的すぎるほど朝食をとっている娘の不自然な行動に母親は疑問を持ち問いかけた。

「今日は部活の朝練だよ。昨日ちゃんと伝えておいたでしょ？」

「……あらあら、お父さんの朝ご飯が多くなったわね」

母親は口元に指をあてて少しの間考える様に黙った後、にっこりと笑って何も無かったかの様に台所の作業へと戻った。

「・・・お父さん」

少女は靴紐を結び直しながらボソリと小さく呟くと共に、心の中で母の父に対する対応にただ憐れと思うのであった。

そして最後にキュツと結びを固めると少女は玄関の外へと出て行った。

「いつてきまーす」

それに対して母親は「いつてらっしやい」といつもの通りに返したのであった。

ちなみに父親は仕事上まだ寝ていたりする。

*

「秋ちゃん！」

少女の家から二つ目の曲がり角、少女は黒く長い髪を持つ少女、秋と一緒に登校する約束をしていたようだ。

「おはよう、春ちゃん」

駆け寄る少女、春は満面の笑顔を浮かべた。そんな彼女の姿に柔らかなく微笑み返す秋のその姿はまさに大和撫子と呼ばれるに相応しいものである。

そして二人はそのまま合流するとゆっくりと歩き慣れた通学路を進み始めた。

通学路を二人はたわなない話をしながら過ごしていた。

その途中、公園を横切った時だった。散歩中であるう犬とその飼い主を視界に捉えた春は声をあげた。

「ワンちゃんだ〜」

その表情は外ではあまりにもだらしなく蕩けきっていた。それはたとえ親友と言えるぐらいに仲が良い友人であっても苦笑いが出てしまう程のものである。

秋も例外に漏れることはなかった。

「春ちゃんは本当に犬が好きだね」

「好きだよー、特にあの動き回る尻尾がたまらなく可愛い!!」

ココまでは何処にでもありえる風景である。

春達が見ていた犬はブンブンと振っていた尻尾の動きをピタリと止めてクンクンと辺りの匂いを嗅ぎ始めた。

「ん?どうしたんだ?」

飼い主は当然のごとく飼い犬の急な変化に疑問を持ち、覗き込むようにソレへと顔を近づけた。

その時に、飼い主の運命は決まったのであった。

「え」

それは一瞬の出来事だ。

飼い主は啞然とした表情のまま何の抵抗もなく身体を横に倒したの

である。

彼の中ではあまりにも突然で大きすぎるであろう衝撃を与えられたために、きっと何が起こったのか正常には理解できなかっただろう。今、この一瞬の間に起きた出来事を正常に、正確に、理解できる可能性を持っているのはこの場において実際に見ていた人物だけである。そして、その人物は二人いる。そう、春と秋だ。

「あ　っ、ああ」

だが、その二人の内の一入である春はあまりにも衝撃的な出来事が突然に起こったため体の筋肉が固まってしまったかの様に動けずいた。悲鳴をあげることも出来なかった。

春が今の状態になってしまった原因・理由は、一言で説明出来るほど簡単に単純なことである。

目の前で人が死んだのだ。自らの飼い犬に首を噛まれ、肉をえぐられ、死んだのだ。

「　ああ、つあきい」

たとえ一瞬であろうとも、ただの学生である春には刺激が強すぎた。そして、この状況で唯一助けてくれる、絶対に自分の見方であると断言できるくらいに信頼している者に縋って手を伸ばしてしまつのも仕方がない。春はやや斜め後ろの秋の袖を掴むと後ろを振り向いた。

「あ、秋？」

秋は俯いている。僅かにだが身体も震えている。それを見て、春は自分が冷静になっていくのを感じた。私がこの子

を守らないといけない、そう思い、秋の袖を握っていた手を彼女の肩に移した。

「大丈夫、秋？」

春もまた、彼のように、覗き込むように顔を近づけた。

「あ、あ……」

運命は決まった。

その場には食を貪るモノしか存在しない。

*

- 同日 9:00 -

場所は深海、誰も知らない、知らされていないその場所にはガラス張りのドーム状の建物が存在する。

「これから緊急会議を始める」

歳に似合った深みのある声が空間に響く、その声は元々あった緊張感を更にも上書きさせるかのようであった。

この場にドア等の入り口は存在しない。中央にある丸型のデスクに集まっている彼らは実体を写した映像である。

「この会議は現在人間を含めた生物の凶暴化の問題についての今後の対応と、… 解決案も出したいところだが時間がないため、これは後にする」

人数は五人、比較的若い男から議論は始まった。

「凶暴化の原因ですが単刀直入に言いまししょう、原因は最近発見された” から発生される” ”である可能性が高いです」

「可能性？」

「はい、研究院の方で開発途中であった最新解析機のテストで発見されたものなのですが、今回の原因である可能性が高いです。まあ、今の段階では不明な部分も多いためまだ発表には至っていませんが……」

「なるほど、ならば今はそれを主な原因と考えて対策を考えていこう。まずは、現在解っている範囲の情報の提示を頼む」

「はい、……只今データを送りました。これの名前は” ”、この世界での最大の負の遺産となるものでしょう」

この後も議論は続けられた。

それは長いようで短い時間だった。彼らは今、結論を出す。今、出さなければいけないのだ。もう残された時間は少ない。

*

- 同日 22:21 -

「くそっ、” が周るのが早過ぎる！」

「早く、早くしなければ!!」

薄暗く広い空間の中で、専用の白衣を着たいわゆるこの世界で研究者と呼ばれる者達が五十人、ただひたすらにキーボードを打っている。

その額には汗が、眉間には常に皺を寄せ、それぞれが焦慮の表情を浮かべていた。

「院長！奴等がこちらに近付いて来ます!!」

「なんだと!?!」

院長が目をカツと開き叫ぶと丁度ドガツ、とこの空間を守る分厚い特殊金属で造られた壁が何か強い力で殴られた音が微かにだが確かに聞こえた。

そして、その音を出した原因達の居る壁は僅かにだが変形していた。

「副院长、君は一旦転送の準備にかかれ！」

「っはい!!」

院長はかなり焦っていた。己の判断・能力・技術に、これからの全てがかかっているというプレッシャーに彼女の精神は押し潰されそうになっていた。

だが、彼女は”院長”である。”長”としての誇りが彼女を潰させはしない。

彼女が元の作業に戻ろうとした時、部下である一人の研究者が叫んだ。歡喜の感情を乗せた今日初めての明るい声であった。

「ラインを突破しました！何時でも起動出来ます！！」

「来たか！副院長、転送の準備は？」

「完璧です！」

同じ空間であるはずなのに、数分前とはまったく別の場所に感じるくらいに場の雰囲気は良い意味で高まっていた。

「では、彼らを亜空間へ！私達の未来を終焉という形で終わらせてたまるものか！！」

院長は今まで準備していた装置の起動を命令すると、大きな動きで歩き出した。

彼女の向う場所は淡い蒼い光を放つ、ガラス張りの壁だった。彼女はガラスに右手を置いた。そして、身を閉じ、左手を心臓のある位置に置いた。そのままふつと軽く息をはき、宣言する。

「誓おう！たとえ身体が減じようともこの魂は貴方達と共にいることを！護ることを！導くことを！私達は、」

その時、大きな破壊音が空間の中に響き渡った。だが、誰もが振り返ることはなかった。

『誓っ！！！！』

研究者達の声が一つとなる。

それは誰をも魅了するような凜とした力強さを持った一つの声だった。

*

- 西暦2300年 某日 0:00 -

世界に光はなくなり闇に包まれた

だが、光があるから闇があるように
闇があるから光があるのだ

君は、僅かな光にでもなれるのだろうか

《 人類滅亡 》

この世界に生物は存在しない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3549y/>

Real & Select

2011年11月8日22時08分発行